

# プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

## タンザニア連合共和国

## ムキンガ地域開発プログラム(TZA-192736)



支援を受けてお腹いっぱい食べることができるようになったアリー君(7歳)



アリー君の母親(後列左)はADPから学んだ近代的農法を実践し、収穫量を増やしています

### チャイルドストーリー

## 収穫が増え、 子どもたちが十分に食べられるようになりました

ムキンガ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすアリー君の両親は、トウモロコシやキャッサバを栽培しています。以前は収穫量が少なく、アリー君を含む7人の子どもたちの食料にも事欠く貧しい暮らしが続いていました。子どもたちの教育費が支払えず、学校から追い出されそうになり、近所の人にお金を借りて何とか学校に通わせていたと言います。

しかし、アリー君がワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録され、支援を受けるようになってから、生活は少しずつ改善していきました。両親が近代的農法の

研修に参加し、学んだ農法を実践したところ、収穫は以前の2倍に増えました。「収穫が増え、作物を売ることができるようになり、得た収入で子どもたちの教育費が支払えるようになりました。子どもたちに1日3回食事を食べさせることができるようになり、とても嬉しいです」と母親は話します。

また、アリー君の家の近くにはADPの支援で水タンクができ、きれいな水が飲めるようになりました。トイレの後の手洗いの習慣を学んだアリー君。病気にもかかりにくくなり、元気に成長しています。

生計向上プロジェクト

農業生産性の向上と貯蓄融資組合の普及に力を入れています

ADPでは貯蓄融資組合の組織化を支援しています。貯蓄融資組合のメンバーは定期的に少額を出し合って貯蓄をし、まとまったお金が必要になったときには、貯蓄額に応じて組合から低利でお金を借りることができます。近くに金融機関がない地域住民にとって、この活動は大変重要です。メンバーは融

資を受けて農業器具を購入したり、子どもたちの教育費や医療費に充てたりしています。また、人々が貯蓄の習慣を身に付けたり、メンバー同士でお互いの生活の様子や問題などを共有したりする場としても役立っています。このほか、地方政府と協力し、近代的な農業技術の普及にも取り組んでいます。

\$ 貯蓄融資組合の数  
12 (2013年) → 19 (2014年)



貯蓄融資組合の様子

昔は伝統的な農法で1エーカーあたり200kgのトウモロコシしか収穫できませんでした。しかし、ADPの研修で学んだ方法を実践してみたところ1,300kgまで収量が増えました。今では教会で会う仲間にも学んだことを伝えています



収穫したトウモロコシを嬉しそうに見せてくれたクレメントさんと家族

## 保健プロジェクト

## 幼い子どもや母親の命を守るため支援をしています

地方行政や医療施設と協力し、支援地域内の28カ村をまわり、5歳未満児9,962人にビタミンAを投与<sup>※</sup>、4,426人の寄生虫駆除を行いました。5歳未満児の予防接種率は91.5%（2012年）から93.7%（2014年）に向上しています。また、同じく28カ村で産前健診の大切さを訴え、新たに1,620人の妊婦がこのサービスを受けることができました。地域ではまだまだ医療施設への抵抗感や距離の遠さなどから家庭分娩を選び、不衛生な環境と不適切な処置のため残念ながら命を落としてしまう女性も少なくありません。ADPは、家庭分娩の際に大きな役割を果たす「伝統的産婆」に対して妊娠期の危険信号について教え、そのような兆候が見られる場合は早期に妊婦を医療施設まで連れてくるよう指導しています。

※開発途上国では栄養不良のため、ビタミンA欠乏症になる子どもたちが多くおり、最悪の場合は失明に至る場合もあります。



支援地域内の村々を巡回して健康診断や予防接種などのサービスを提供しました



伝統的産婆を集めての研修の様子



5歳未満児の予防接種率 **91.5%**（2013年） → **93.7%**（2014年）



## 支援地域の女性のストーリー

## 地域の女性リーダー ムワナハミシさん

ムワナハミシさんは農業で生計を立てていましたが、伝統的な農法は生産性が低く、1エーカーの畑からバケツ1杯のトマトしか収穫できないこともあったと言います。3人の子どもたちを十分に食べさせることにいつも苦労していました。

この状況から抜け出すため、ムワナハミシさんはADPが実施した縫製の研修に参加し、研修に参加した女性たちとグループを作り、ADPから3台のミシンを提供してもらいました。ムワナハミシさんとグループのメンバーは、ミシンを活用して服を仕立てて売り、現金収入を得ることができるようになりました。得た収入はグループで貯金し、メンバーは必要に応じてグループ貯金からお金を借りることができます。

「ADPの活動に参加するようになってから、地域の問題を自分たちでよく考えるようになりました。私たちのグループでは、服を売って得た収入を自分の子どもたちのために使うだけでなく、HIV/エイズ患者やストリートチルドレンに石けんや学用品を送ったり、医療費を支援し

たりする活動にも使っています」と話すムワナハミシさん。将来はミシンをもっと増やし、活動を拡大したいと考えています。



ADPから支援されたミシンを使って縫製の仕事を始めたムワナハミシさん（34歳、左）と縫製グループのメンバーたち



## ADP スタッフ・インタビュー

### Q.どのような仕事をしていますか。

子どものための栄養ある食事や衛生的な習慣の重要性についての啓発活動や、貯蓄・生計向上などの研修の企画と実施を担当しています。また、チャイルドを訪問して成長を確認したり、チャイルド・スポンサーへ送る成長報告や手紙を取り扱う仕事もしています。

### Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

子どもたちを取り巻く環境が改善し、身体も心も健康に成長できる地域へと変化していくことを見る時、やりがいを感じます。



ムキンガADPのスタッフ。いちばん左がインタビューに答えたクリスティーン・ファウスティン(41歳)

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



支援により、子どもたちが健やかに成長できる地域へと変わりつつあります

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

## 会計報告

TZA-192736

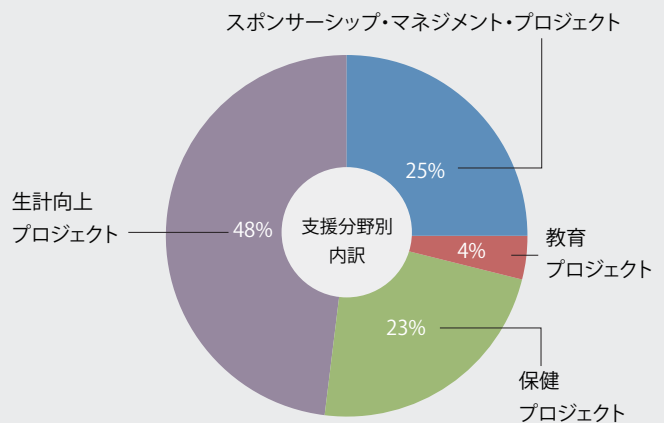
収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

### プログラム支援額

チャイルド・スポンサーシップ	33,077,393
当期支援額	33,077,393
前期繰越金	2,650,868
プログラム支援額合計	35,728,261

### プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,112,589
教育プロジェクト	1,484,307
保健プロジェクト	8,061,229
生計向上プロジェクト	16,977,844
プログラム支出額合計	35,635,969
次期繰越額	92,292



2014年度より、農業プロジェクトの名称が生計向上プロジェクトへと変更となりました。また、2014年度の生計向上プロジェクトの支出額には、2013年度にて終了した水資源開発・公衆衛生プロジェクトの精算額(195,715円)を含みます。なお、教育プロジェクトも2013年度にて終了していますが、会計処理が2014年度に入って行われた分を、2014年度の支出額として計上しています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン  
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)  
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp  
e-mail：dservice@worldvision.or.jp